雨

れつだん先生

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
雨

【Ｎコード】
Ｎ１３９１Ｋ

【作者名】
れつだん先生

【あらすじ】
特に無し。強いて言うならウンチテーゼ。

「雨に打たれるのって気持ちいいよね」
と言いながら、僕が持っていた傘から飛び出し雨に濡れるアーヤが微笑んだ。雨によって透けて見える下着から目を逸らしながら、僕は傘を閉じ、同じように雨に濡れた。せっかくこの日のためにセットした髪の毛が濡れて、わかめのように額にべたりと張り付いた。
「ちょっと冷たいね」
「天然のシャワーだよ」
木下彩。みんなは彩って呼んでるけど、呼び捨てにするのも恥ずかしいと僕だけアーヤと呼んでいた。アーヤは「何か外人みたいで照れくさいね」と言いつつも、それが気に入っているのか、他の人にもそう呼ばせているようだ。
両手を広げて雨に打たれているアーヤに目をやった。薄茶色の髪の毛は僕と同じようにべったりと顔にへばりつき、水滴が髪の毛の先から地面に落ちている。それとは別の水滴が首筋に流れ、シャツの中に入り、透けて見えるピンクの下着の合間を辿っていく。そして短いスカートの下へと流れ、細すぎず太すぎない丁度いいぐらいの太ももへ、そしてそれは地面へと。
暫くして僕の目線と透けている下着に気づいたのか、顔を伏せて後ろへ向いた。
「ちょっと、早く言ってよ」と怒るアーヤの姿が可愛く思えて、僕はアーヤの背中に抱きついた。その瞬間、顔面に思いっきり拳がめり込んだ。衝撃が鼻から脳天へと走り、後ろへ滑るようにして転ぶ。大量に降る雨のせいで、鼻血が出ているのかもわからない。一応念のために鼻を触ってみたけど、骨は折れてないようだし、血も出ていないようだった。
「せ～かい～にひ～とぉ～つだぁ～けのは～な」
泣きそうな表情でＳＭＡＰの世界に一つだけの花を歌うアーヤを

見上げていると、僕の股間が膨張してくるのを感じた。なぜって！？　だって、雨に濡れて下着が透けている上に、近づいてきたアーヤのスカートからパンツが見えるんだもの！　そのパンツも微妙に透けて、薄黒いもやもやが浮かんでいる！　これはまさにアート！

「ひとりひと～り、ちが～う種を～もつ」

僕もアーヤに合わせて歌いながら、思わずズボンのチャックを上げ、一物を晒した。

「そのは～なを～さかせることだ～けに」

僕は一心不乱になりながら、一物をこすった。

「一生懸命になればいい～」

ら～らら、ららら～ら～ら、ら～ららら、ららら～ら～ら～ら

（後書き）

ありがとうございました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1391k/

雨

2011年1月19日03時41分発行